

パンクへの備えは大丈夫？

平成19年に自動車点検整備推進協議会が実施したアンケートによると、最近1年間で8.4%*のドライバーがタイヤのパンク・バーストを経験しています。

近年ではパンク対処方法として、スペアタイヤ(Tタイプ応急用タイヤを含む) 以外に、ランフラットタイヤやパンク応急修理キットを装備・搭載した車両が登場しております。いざタイヤがパンクした時に困らないように普段から自分の車の装備の特徴を知り、点検・整備し、適正使用を行い、安全を確保しましょう。 *青森、群馬、新潟、滋賀、広島5県で実施の自動車点検整備推進運動イベント会場の参加者のうち1,340人に実施

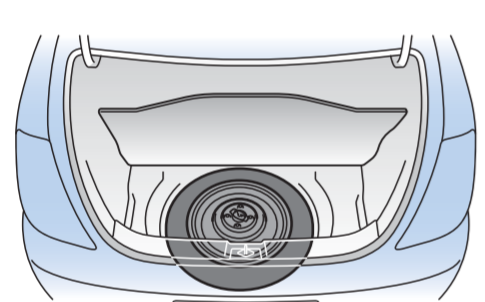
スペアタイヤのある車両

Tタイプ応急用タイヤ



標準
タイヤ

応急用
タイヤ



※車両の外に装備されている
タイプ等もあります。

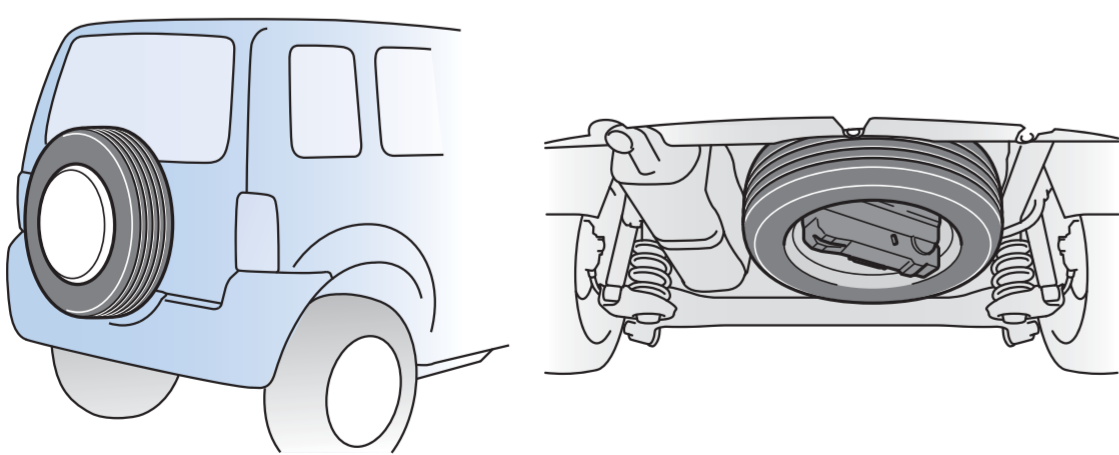
乗用車の指定空気圧の一例

タイヤ空気圧 (kPa/kg/cm ²)	
タイヤサイズ	前・後輪
185/60R15 84H	220 {2.2}
応急用タイヤ	
T125/70D16 96M	420 {4.2}

注意事項

- 1) 指定空気圧は420kPaです。定期的な空気圧点検をしてください。
- 2) 装着位置の指定がある場合がありますので、自動車の取扱説明書等に従ってください。
- 3) 最寄のタイヤ販売店等までの一時的な使用とし、その後は速やかに標準タイヤに交換してください。

標準サイズのスペアタイヤ



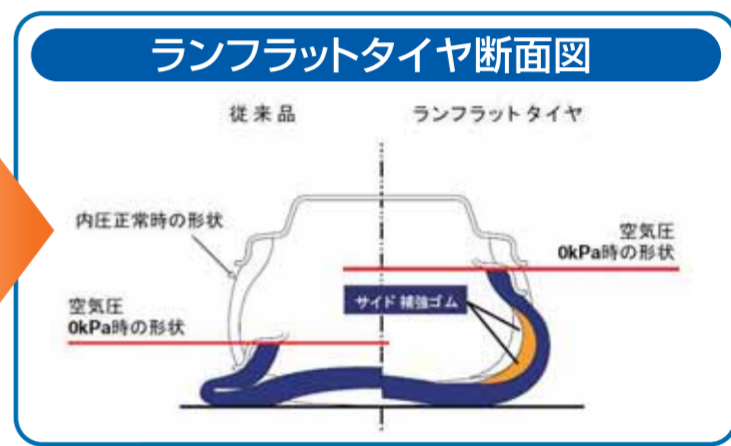
※トランクルーム内に装備されているタイプ等もあります。

注意事項

- 1) 定期的な空気圧点検をしてください。
- 2) スペアタイヤも含めて位置交換を実施してください。

スペアタイヤのない車両

ランフラットタイヤ



パンク状態確認後の注意事項

注意事項

- 1) 走行速度及び走行距離に制限があります。* 出来るだけ速やかに新品への交換等を実施してください。
 - 2) パンク修理による再使用が出来ない場合があります。*
 - 3) 急激なハンドル操作や急制動等は避けてください。
- *自動車の取扱説明書等に従ってください。

取扱説明書 記載例

- 1, 急加速、急ハンドル、急ブレーキを避ける。
- 2, 時速80km/h以下で走行する。
- 3, タイヤ交換まで80km以上走行しない。
- 4, 段差などの乗り越えに注意する。

パンク応急修理キット

パンク応急修理した後の注意事項

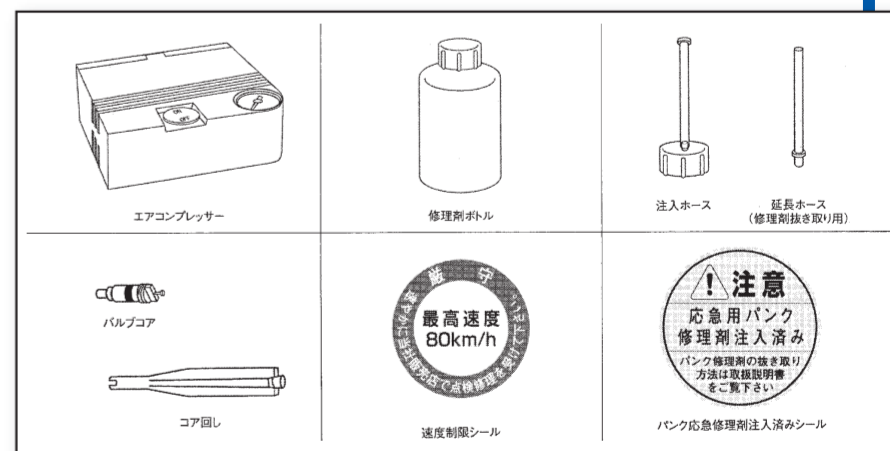
- 1) 走行速度及び走行距離に制限があります。* 出来るだけすみやかに新品への交換・恒久的修理を実施してください。*
- 2) 急激なハンドル操作や急制動等は避けてください。

注意事項

その他取扱上の注意事項

- 傷の大きさや位置によってはパンク応急修理剤では処置できない場合があります。*
 - パンク応急修理剤には有効期限があります。*
- *自動車の取扱説明書等に従ってください。

応急修理キットの内容(例)



タイヤ販売店の皆様へ

パンク応急修理剤を使用したタイヤ(ホイールに修理剤注入済シール貼付)をリムから外す際は、パンク応急修理剤を抜いて(飛散・こぼれに注意しながら)から作業してください。パンク応急修理剤は自動車の取扱説明書等に従って、産業廃棄物として処理をしてください。

